

水稻モンガレ病の薬剤防除について

矢尾板恒雄*・加藤繁雄**

(新潟県南蒲原防除所、**同県嵐南地区農業改良普及所)

この報文は新潟県南蒲原郡今町でモンガレ病の集団防除を行った地区内の圃場試験結果である。この試験は4ブロック制乱塊法で1プロットの面積を1反歩とし、セレスン石灰1回撒粉区、同剤2回撒粉区、リオゲンダスト1回撒粉区及び標準無撒粉区を設け、撒粉は背負式動力撒粉機で1回撒粉区は7月28日に、2回撒粉区は7月18日と28日に反当3kgづつ撒粉した。各処理区とも共通している調査品種は農林41号、同21号、新7号、ヤチヨガネ、平和糯の5品種である。このようにして、8月下旬の草丈、莖数、8月3日に於ける被害度や罹病株率及び収量などについて検討を加えた

が各処理間に有意性は見られなかつた。しかし、8月28日調査の被害度と罹病株率では、各薬剤撒粉区が無撒粉区に比べると1%水準での有意差を以て減少している。ところが、このように罹病程度に有意差を見ながら収量はなぜ差がないのであろうか。これについては、各処理とも1反歩1品種の組合せであつたため、この病害による減収よりも栽培者間の技術差、圃場の地力差、その他の要因による影響が大きいため、このような設計に於ては収量まで論ずるのは無理なようである。

モンガレ病薬剤防除試験

飯田格・鈴木幸雄

(農林省北陸農業試験場)

モンガレ病の薬剤防除について若干の試験を行ったのでその概要を報告する。

薬剤撒布時期に関する試験 圃場に植えた水稻農林1号に6斗式石灰等量ボルドウ液及びセレスン石灰(水銀0.25%)を、6月25日から8月15日の間、10日

おきに撒布した。撒布回数は1回で反当撒布量はボルドウ液8斗、セレスン石灰4kgである。試験区は高さ12cmの杉板で囲い、接種病原菌の灌排水による移動と第2次伝染を防いだ。接種は6月30日に、稲葉培養のものを各区30g宛とした。こうして、9月6日～

第1表 発病調査結果

撒布時期	薬 剤	調 査 茎 数	多 肥				少 肥			
			罹病茎数	草丈 cm	罹病茎長 cm	// 率%	罹病茎数	草丈 cm	罹病茎長 cm	// 率%
6月 25日	ボルドウ液	140	137	85.3	41.6	48.8	56	76.5	13.7	17.9
	セレスン石灰	//	131	76.8	38.3	49.9	103	78.4	24.4	31.1
7月 5日	ボルドウ液	//	137	89.5	34.8	42.2	124	77.7	29.8	38.2
	セレスン石灰	//	140	33.1	39.0	46.9	108	76.5	24.4	32.1
7月 15日	ボルドウ液	//	110	79.2	26.5	33.3	93	82.8	20.2	24.5
	セレスン石灰	//	136	79.2	39.1	49.4	110	79.6	27.9	35.0
7月 25日	ボルドウ液	//	139	87.9	42.5	48.4	88	72.7	14.3	19.7
	セレスン石灰	//	139	76.3	48.4	63.4	91	75.7	21.0	27.5
8月 5日	ボルドウ液	//	139	85.1	42.7	50.2	55	78.2	7.6	9.7
	セレスン石灰	//	135	82.0	42.2	51.4	88	80.6	20.7	25.7
8月 15日	ボルドウ液	//	138	80.6	40.4	49.4	80	75.7	13.9	18.4
	セレスン石灰	//	111	80.0	25.1	37.7	88	75.3	20.8	27.6
無 撒 布		//	135	80.2	41.4	51.6	124	76.3	30.2	39.5